

第 75 回全国高等学校 PTA 連合会大会 2026 大分大会

参加報告書

開催日時	2026年 8月 20日（木）～ 21日（金）	提出日	2026年 8月 22日
参加分科会	第3分科会（立命館アジア太平洋大学 APU）		
テーマ・演題	テーマ：ダイバーシティの力（サブテーマ：多様性の中ではぐくむ地域・人材・未来） 演題：「グローバル時代のサステナブルな都市づくり」～将来世代参加による多文化共生を目指して～		
講師	立命館アジア太平洋大学 サスティナビリティ観光学部 大幅 弘明 教授		

1. 大会および分科会の概要

全国高等学校PTA連合会として初となる「大学キャンパス」での分科会開催となった第3分科会では、大分県別府市に位置する立命館アジア太平洋大学（APU）を会場に、グローバル化と多文化共生をテーマにした講演および実践事例の共有が行われました。

APUの圧倒的な多様性：

- ・学生は世界122カ国・地域から集まり、そのうち**48%が外国籍**。
- ・教員についても**48%以上が外国籍**で構成。

このような環境であえて多様性を重視する理由は、異なる言語や価値観を持つ者同士が言葉を尽くして理解し合うことで、「対話を通じて理解する力と伝える力」が養われ、さらに多様な発想がぶつかり合うことで新たな化学反応（イノベーション）が生まれるためです。

2. 大幅弘明教授 記念講演の要旨

将来の日本の都市像を見据えたとき、グローバル化への対応と多文化共生の取り組みは不可欠であると指摘されました。講演の中では、多文化共生の本質や地域社会のあり方について深い洞察が示されました。

① 「分かり合えるはず」という思い込みの罠

「人と人とは分かり合えない。だからこそ諦めるのではなく、前向きに付き合うために違いを前提に理解を重ねる。」

トラブルの多くは「前提の違い」から生じます。同じ環境で育つと「自分の当たり前が人の当たり前ではない」ことに気づきにくくなります。「半分しか入っていない（足りない部分を見て『なぜわかってくれないのか』と嘆く）」という減点法ではなく、「半分も入っている（足りている部分を見る）」という**加点法**の姿勢が重要です。多文化共生とは「同じになること」ではなく、「**違いを前提に理解を重ねること**」であると学びました。

② 観光・地域づくりにおける多様性と持続可能性

観光は多様な人と地域が出会う入り口であり、国籍・言語だけでなく、宗教・食習慣、年齢・障がい、価値観・生活習慣、家族構成、性的指向・性自認など、様々な「違い」が存在します。

旅を諦めさせる「見えない壁」と対応事例：

- **宗教・食習慣**：原材料・アルコール・礼拝や食習慣への不安に対する配慮。
- **ユニバーサル**：段差・トイレ・移動距離・看板類・情報不足の解消。
- **LGBTQ+**：マジョリティ前提の接客・更衣・入浴時の周囲の視線など、特別な扱いではなく「自然に接する」ことの重要性（例：島根県松江市のユニバーサルツーリズムや、米国パームスプリングスの事例）。

多様性への対応は特別なことではなく、受け入れ態勢を整えることで来訪機会が増え、満足度や同行者需要が向上し、最終的に「地域が適正に儲かる（経済的な持続可能性）」につながります。

③ 地域をまとめるということ

企業組織であれば「社長の言うことが全て」としてトップダウンでまとめることができますが、地域社会においては、商店や住民などそれぞれが独立して考え、主体的に動いています。だからこそ、画一的なルールで縛るのではなく、お互いの前提の違いを受け入れながら対話を重ね、方向性を共有していくプロセスが不可欠となります。

3. APUと地域・産業界の連携実践

APUはツーリズムおおいた等との包括連携協定（2026年5月18日締結）をはじめ、観光DMPの活用、県内フィールドワークやインターンシップ、人材育成（県内就職の促進）、共同研究・提言など、大学の知見や学生の視点を地域に還元する取り組みを積極的に展開しています。これにより、学生は地域の現場で課題に向き合い実践的に学び、地域側は新たな視点を取り入れて課題を分析・解決するという相乗効果が生み出されています。

4. 参加者としての考察・総括

今回の分科会を通じて、グローバル化が進む現代社会において、教育現場や地域社会が向き合うべき「多様性」の本質を深く理解することができました。家庭や学校、そして地域において、私たちは無意識のうちに「自分と同じ前提」を相手に求めてしまいがちです。しかし、APUの先進的な教育環境や大幅教授の講義にあったように、「分かり合えない他者との違い」をネガティブに捉えるのではなく、対話を通じた加点法で受け入れ、新たな価値（化学反応）を生み出していく姿勢こそが、これからの次世代育成や地域活性化に最も求められている力であると痛感いたしました。

本大会で得た貴重な知見を、今後のPTA活動や地域との連携、そして子どもたちの進路や人間形成を支えるサポートにしっかりと活かしてまいりたいと思います。